

# 小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。  
 未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	カプラでチャレンジ！
学年	小学校第1学年
目標	ラクダの完成見本を手がかりに作り方を考え、課題と同じものを積み木で作る体験を通して、プログラミング的思考を育む。
教材タイプ	アンプラグド
使用教材	KAPLA®
環境	1グループ（2～3名）に KAPLA®を 200 枚
都道府県	滋賀県
実施校	栗東市立金勝小学校

学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)

1. 本時の学習課題を知る。  
 カプラで作ったラクダの画像を提示し、これをもとに作り方を考え、作り上げることを目指す。  
 どの部分から、どの順序で作っていくかを問いかけ、思考の焦点化と課題解決の大まかなイメージをもたせる。

### 児童に提示した掲示物



2. グループで、ラクダ作りに挑戦する。



児童からは、『くび』と『こぶ』は、どちらが先でも作れる。」など、複数の解決手順があることへの気づきも見られた。

見本を注視し、作り方を考える児童

崩れないよう作り方に工夫を加える児童

3. どのような順序で作ったか、交流する。

どのような順序で作れば課題解決できるのかを写真を並べ替えながら共有する。



### 本活動で働くプログラミング的思考（パソコンを用いたプログラミングへの繋がり）

試行錯誤・継続的な改善

問題（課題）の解決



成果と課題

次学年以降のパソコンを用いたプログラミング体験にむけて、意図した一連の活動の実現（ラクダの完成）するために、必要な動き（組み立て）を分けて考える、試行錯誤するといったプログラミング的思考の原体験を発達段階に合わせた形で実施できた。